

1. 高校生プロジェクトに、 ご支援いただいた皆様へ

「第4回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト in 岩見沢」

実行委員長 柳原 涼花

(北海道岩見沢農業高等学校 3年)



昨年と同様に岩見沢市内の4校の高校生による「第4回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト in 岩見沢」が、今年度も無事終了しました。

今回、私たちの活動をより多くの人たちに知っていただきたいと思い新たな取り組みを行いました。昨年度までの活動で、岩見沢市内の方々には、このプロジェクトを知っていただく機会が多くありました。震災から5年たった今、その記憶が年を追うにつれ薄れていくことに私たちは問題を感じていました。震災の記憶を薄れさせないために、岩見沢での「大和タウンプラザ・メイン販売会」だけでなく、岩見沢の高校生が取り組んでいるこのプロジェクトをもっとたくさんの方に知ってもらうために、様々な地域、国の方が訪れる札幌での販売会を決め計画をスタートさせました。最初のうちは、販売する場所、時間、そして、テントの数やその中の配置などはじめて考えなければならないことばかりで大変でした。しかし、準備を進めていく内にプロジェクトの4校のメンバーがお互いに積極的にアイデアを出し話し合っていたことで、その後の活動を成功させていく手ごたえを感じました。

その結果、札幌での販売会当日は、テント張りや販売用テーブル設置、写真パネル展示などスムーズに行うことができ、メンバーみんなで汗をかきながら、一生懸命に頑張りました。しかし、その日は、あいにくの激しい雨が降り、販売開始時には販売できる状況ではありませんでした。昼ごろに一時雨がやみ短い時間でしたが販売することができました。岩見沢での販売会とは違い道外の方や外国の方も商品を買っていただきました。そして、昨年からメイン販売会として行っている大和タウンプラザでの販売では、「新聞で見て買いに来ました。」「去年の販売会で東北の物産を買って美味しかったから、また買いに来ました。」など嬉しいお言葉をいただきました。今年度は、岩見沢を中心として、その枠を超え、札幌販売会を通じて全道、全国、そして、外国の方にも、私たちのプロジェクトを知ってもらうことができ良かったと心から思いました。

そして、もう一つ今年度より新しく取り組んだこととして、「東北の今を考えるパネル展」を行ったことがあります。昨年度は単年度分のものを実施しましたが、今回は、東日本大震災の復興支援を目的に、被災地（岩手、宮城、福島）より提供いただいた3年分の写真パネル展を行いました。14の自治体や団体の展示物から、被災状況を広く知っていただく機会とすることができました。

第4回で初めてのことに挑戦してきた私たちに様々な形で協力していただいた皆様、活動支援金に協力していただいた皆様、商品を購入していただいた皆様、この活動に関わっていただいたすべての皆様に、感謝、申し上げます。本当にありがとうございました。

東北の大震災の記憶を風化させないためにも、来年も、再来年も、この活動がより活発になるように、これからも、このプロジェクトを行っていただきたいと思います。

2. 高校生プロジェクトin岩見沢の概要について

① 実施計画骨子

地元岩見沢でできる次の復興支援を市内の高校に通う生徒が協力し行っていく。

- ① 東北の物産、復興支援商品を買う（仕入れる）ことで、被災地で働く人や住んでいる人などの支援とする。
- ② ①で仕入れた物産を「大和タウンプラザでの販売会」をメインとしたいくつかの市内で販売会をすることで、より多くの市民の方に復興支援に関わっていただく。
- ③ 被災し就学困難になっている高校生、及び、未来の高校生（現小中学生）が安心して学べる環境になるための一助として役立つことを願って、物品の売り上げを「東日本大震災子ども支援 ユネスコ協会就学支援奨学金」にあてる。
- ④ 被災地のことを忘れないために東日本大震災に関する展示「東北の今」を行う。
- ⑤ 以上のことを行っていくための協賛金を市民の方にお願ひし、この高校生プロジェクトを援助していただく。

標語 「東北を忘れない、買って支援、売って支援」

② 組織構成

- ① 上記の実施計画を行うことに賛同する市内高校生を中心とした個人・団体で構成する。第3回高校生プロジェクト参加団体である岩見沢農業高校ボランティア・ユネスコ部、岩見沢緑綾高校ボランティア部、岩見沢東ボランティア部、岩見沢高等養護学校生徒会執行部と岩見沢市社会福祉協議会が第4回の計画案準備に当たる。
- ② 実施に当たって、大まかな業務（総務、展示、宣伝、庶務）を学校単位で受け持ち、相互に連絡をとり、業務の円滑な遂行を図る。また、プロジェクト全体まとめ、計画実施のための連絡・調整・進行は、総務担当校が行い、その代表が実行委員長となる。
- ③ 生徒への指導、助言に当たっては、岩見沢市社会福祉協議会担当者、及び、各高校団体顧問、プロジェクト賛同者等が連絡、協議のもとに行う。
- ④ 高校生プロジェクト協力機関として岩見沢市社会福祉協議会があたる。岩見沢市社会福祉協議会は、高校生ではできない金品管理や公式な他団体への依頼等を行う。

③ 今年度の主な変更点

- ① 学校単位で役割分担をする。
 - ・総務については、全体的な調整が必要であるので1校で行う。
 - ・他の役割については、1校とは限らず、分担する。
 - ・割り振った役割ごとに、リーダー、サブリーダーを決める。
- ② 販売会は、大和のメイン販売会と学祭の販売会に絞る。ただし、広く道民に活動を知ってもらうため札幌での販売会を企画する。

- ③ 展示会の単独開催を増やして行く。展示候補を販売商品と同様に全員で候補を挙げ決めていく。
- ④ 協賛金のお願いを4校全体で分担する。

※ 以上を行っていく上で、各学校のメンバー数や学校事情等を考慮し、分担していく。

④ 役割の分担

	具体的な内容	備考
総務	①プロジェクト全体の代表と掌握 ②物品購入に関わること。(生産者への趣旨説明、発注、アンケート依頼等) ③販売計画(当日参加者の掌握と役割分担計画) ④試食会&ディスプレイ作成会の企画運営	・購入物品希望の調整 ・各販売会場にどのグループがいくか調整
展示	①「東北の今」展示パネル作成(写真、写真説明、タイトル) ②展示パネルの完成版のミニ版(A3)作成 ③独自の展示会の企画と実施	・展示物候補一覧から選択決定 ・必要に応じて写真提供先に質問する ・パネル1枚分に小グループ毎に1写真提供先分を納める。
宣伝	①ポスター、チラシ作成、配布、掲示 ②展示会場に必要なディスプレイ作成の計画 ③プロジェクト説明パンフ作成(PC)	・販売会ごとに作成 ・ディスプレイは全体で作成
庶務	①1商品ごとに、商品説明パネル、カード等作成 ②協賛金に関することの取りまとめ	・生産者のアンケート、ネットなどから作る ・必要に応じて生産者に電話

メンバー全員で関わること	①販売物資の選択・・・商品資料やWebなどから候補を総務に提出 ②展示物候補選択・・・Webなどから候補を展示担当に提出 ③販売会での活動・・・販売会ごとに参加者で役割分担
--------------	--

「第4回 復興支援 東北の物産販売 高校生プロジェクトin岩見沢」構成メンバー 《岩見沢農業高校》・・・総務、展示、庶務

3	柳原 涼花	3	笹森 敦暉	3	倉谷 広市	3	酒井 工	3	瀧本 健太	3	須藤 美佑
3	松井あずさ	3	斎藤 竜	3	西野絹太郎	3	山本 千絵	3	庄野 美咲	3	玉山 里奈
3	佐藤 大成	2	小林 繁喜	2	根木 玲苑	2	川村 優奈	2	吉田 彩花	2	神野 雨音
2	高橋 奈歩	2	藤原 美祐	2	岡山 叶実	1	石塚 史也	1	山元 崇矢	1	小林 勇人
1	徳永 義夢	1	岩元 大樹	1	河原 大輔	1	五十嵐 遼	1	氏家 健輔	1	松川 晴香
1	井上 佳華	1	宮岡 真子	1	若山 月帆	1	波佐尾隆徳	1	高坂 友華		

《岩見沢東高校》・・・展示

3	相川 奈央	2	三輪 窓佳	2	佐藤 亜有	2	木ノ本胡桃	1	鈴木あゆみ	1	鈴木愛菜
---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	------

《岩見沢緑陵高校》・・・庶務、宣伝

3	蝦名 可織	3	西浦あゆみ	2	北野 秀歩	2	大場 華乃	2	小松 綾乃	2	渡邊 翼
2	小見山 昇	2	篠永 陸	2	三宅 岳	2	舘 里穂	1	清水 葵	1	神田 桃奈
1	石川 綺莉	1	五日市杏奈	1	小林 紅葉	1	鈴木萌々香	1	高木 愛奈	1	大谷 結衣
1	栗塚みくる	1	深堀 澪花	1	田中 麻彩	1	郷野 有未				

《岩見沢高等養護学校》・・・宣伝

3	吉田 幸徳	3	奈良 知佳	3	栗田 歩	3	和田 昂拓	2	中西 美貴	2	山田 彩乃
2	猿倉 瑞基										